



「知恵と笑顔と演じる力で」

副所長 岸川 美和子

7月、西日本豪雨災害で、多くの方々が犠牲となり命を落とされました。今も多くの被災者の方々が不安な状況の中、避難所などでの生活を余儀なくされておられ、本当に心が痛む思いです。心よりお見舞い申し上げます。

さて、今年の夏は気象庁が「命の危険がある暑さ。災害と認識している。」と表現するほどの猛暑です。今回、先の豪雨同様この猛暑についても、人間は自然の力を侮ってはいけなかつく感じました。そのような中、学校は夏季休業に入り、先生方も少しほっと息をつかれたのではないのでしょうか。この期間是非、心身のリフレッシュをはかり、2学期に向けてエネルギーの充填をしてほしいと思います。

今回は少し早いのですが、2学期に向けての「こころ」の準備体操のつもりで原稿を書かせていただきます。

2学期の始業式の日、先生方も緊張やストレスを感じる人が多いと思います。同様に子供たちの中にも2学期へ向けての心や学習の準備不足でストレスを抱えながら登校してくる子供もいるのではないのでしょうか。不安そうに登校してきても、もし担任の先生が「笑顔」で迎えてくれたら、子供たちは明日も学校に行こうと思うかもしれません。私たち教師には、どんな時も状況を見極めながら辛抱する気持ちや、本当はわかっていてもちょっと「演じる余裕」と、先に生きてきた者としての「知恵」が必要ではないのでしょうか。

例えば遠い昔を思い出してください。先生方も皆子供だったのです。私は、自分が小学校や中学校の頃、「ああ〜あと3日で夏休みが終わる」と考えただけで・・・、カナカナカナと蝸（ひぐらし）が鳴いただけで・・・、ふとした瞬間に秋の気配を感じただけで、わけもなく寂しい気持ちになって心がざわざわしたことを思い出します。そして慌てて宿題の絵や感想文を書き、自由作品を徹夜で完成させたりしたものです。しかし成長するにつれ、何事も計画的に早めに済ますことが自分にとっても得策だと気づきました。このような経験は多かれ少なかれ誰もがしたことがあると思います。私たち教師には、将来子供たちが学校から社会に出るための準備を手助けするという使命があります。先に生きてきた者の豊富な経験と知恵を活かしながら、子供たちが自分で気づき、考えて、やがて自分自身で解決できるように育てていくことが大切だと思います。

さて、そうはいっても中には日々の業務に追われ余裕がなく、子供の指導や対応に1人で悩んでいる先生、オンとオフの切り替えがうまくできず絶えずオンの状態で走り続ける先生、弱音や愚痴を絶対はかない先生、感情コントロールが不器用な先生などもいらっしゃるのではないのでしょうか。一人で思い悩んだり、行き詰ったりした時は、ふと顔を上げて深呼吸をし、周囲を見渡してみてください。それぞれの学校には経験豊かな同僚がいらっしゃると思います。近い将来、大量退職時代がやって来ます。『いつまでもいると思うな、年配、いえ先輩教師！』先輩の先生はたくさんの失敗経験や成功事例と知恵をお持ちのはずです。困ったときは是非、勇気を出して相談してみてください。

早いところでは8月下旬から長い2学期が始まります。先人や先輩の「知恵」も借りながら、「先生方自身の笑顔」と、子供たちがいつかあんな風になりたいとあこがれる大人を「演じる力」で乗り切ってほしいと願っています。

「脚下照顧」、最近このようなことを考える毎日です。



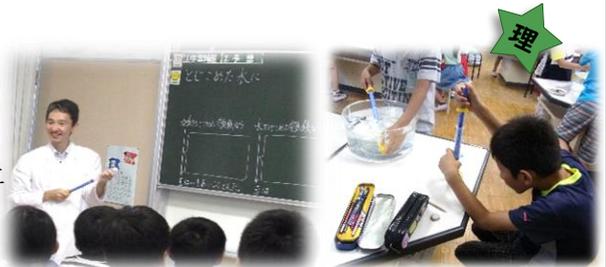
研究協力校の春日北小学校での講座授業が始まりました。今年度も昨年度に引き続き、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりを提案しています。



〔小学校図画工作科Ⅰ講座授業〕

図画工作科では、「児童が造形的な見方・考え方を働かせる絵に表す活動の授業づくり」というテーマで、3年生「これにえがいたら」の授業を行いました。ブラックボックスに手を入れて画材を触ったり、材料を試したりする活動を取り入れました。子供たちは、紙以外の材料に描くおもしろさや色の付き方の違いを楽しみながら活動していました。

理科では、「理科の見方・考え方を働かせて資質・能力を育成する理科の授業づくり」というテーマで、4年生「とじこめた空気と水」の授業を行いました。水をとじこめた空気鉄砲の玉が飛ばないという現象を子供たちに体験させ、空気をとじこめた空気鉄砲と比較する活動を仕組みました。受講された先生方からは、「新学習指導要領の考えに沿った授業が理解できた。実践していきたい」等の感想を頂きました。



〔小学校理科講座授業〕

受講者の声

「問い」の持たせ方、全体で学び合う方法など、学ぶことが多くありました。数学的な見方・考え方を働かせる授業を、自分も実践したいと思います。協議では、授業の組み立て方に対する多くの先生方の意見を聞くことができました。

(6/15 小学校算数科)

実際に授業を見て、単元づくりや発問、子供への対応の仕方等、勉強になりました。演習では、「主体的・対話的で深い学び」ができるような授業のポイントを基にして、単元作成を行うことができました。学校での実践に生かしていきたいです。(6/19 小学校社会科)



新学習指導要領の要点を理解することができました。授業づくりで実際に自分の授業に生かせる言語活動を知ることができました。演習では、他の先生と一緒に授業をつくったことで、一人では見えなかったところを見ることができました。(6/29 小学校国語科)

今後、小学校の先生方に向けては、10月に道徳科、音楽科の講座授業を行います。また、中学校、高等学校の先生方に向けては、大和中学校と致遠館高校で順次、講座授業を行います。実施日は各学校掲示のポスターをご覧ください。申込みや取り消しは、各研修講座実施日の2週間前まで可能です。授業を参観し協議し合う中で、これからの授業づくりに役立つヒントがあるはず。多くの先生方の受講をお待ちしています。



サタデーセンター「サタセン」紹介

土曜日に気軽に参加できる自主研修

生徒指導・特別支援教育 (6月23日開催)
 どうしたらいいの？障害のある子供への対応
 特別支援教育お悩み相談会

通常学級における支援が必要な児童生徒に対する支援の仕方や校内支援体制等について話し合いました。



高校地理 (7月14日開催)
 作問ってどうやるの？『地理』

幅広い年齢層の方が参加されました。作問について疑問に思っていることを、スーパーティーチャーの戸上先生に質問しながら、作問の工夫を学びました。



この他、様々な教科・領域でサタセンを開催しています。9月以降に開催のサタセンの詳細は、開催1か月前までに各担当から学校へ案内します。